

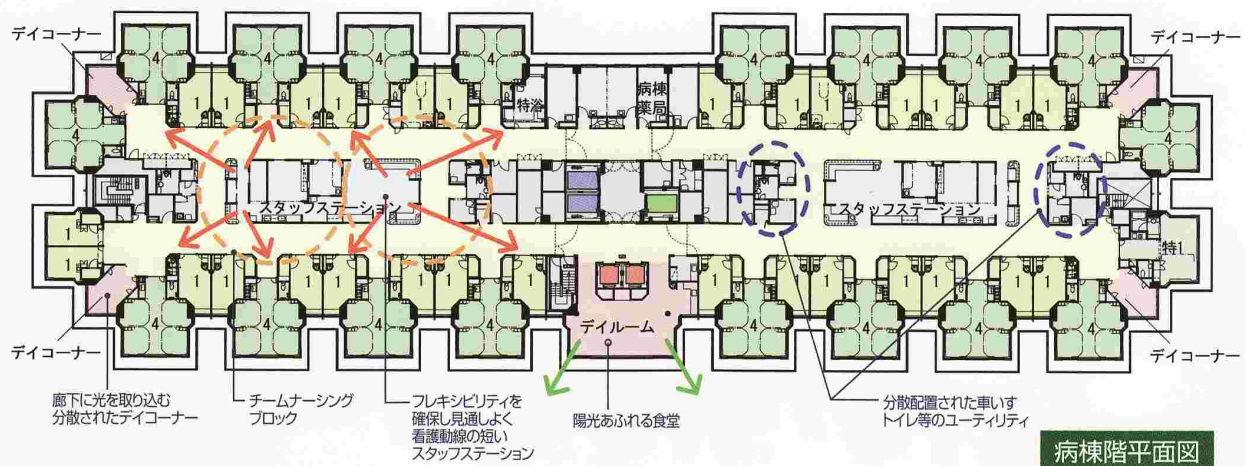
■ 癒しの環境づくり — 入院棟・病室の計画

○患者に近い看護を指して ・・・「急性期入院棟のあり方」

- ・入院棟中央部は、簡易な間仕切りと家具で構成するフレキシブルなナースィングホール。将来の看護単位の小規模化、機能、制度など様々な変化に対応。
- ・病室の配列の工夫で、廊下を短くし、看護動線を短縮、高い見通しを確保。
- ・個室と4床室の混在配置により、診療科（看護チーム）ごとのグルーピングが可能に。
- ・1看護単位50床。個室率約30%の病床構成計画。

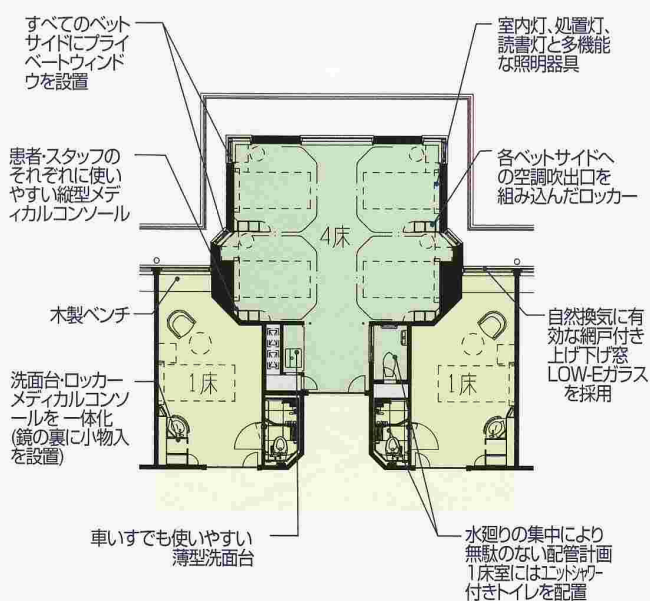


患者に近い看護を実現するナースィングホール



病棟階平面図

○療養環境に配慮した病室の計画



トイレ位置を工夫し、廊下から患者へのアクセス性、視認性、ベッド搬送の容易さを高めた1床室



各ベッドサイドに窓を持ち、プライバシー、居住性を高めた4床室